

研究調査運営委員会レポート

◆調査専門委員会および協同研究委員会 委員の公募◆

| | | | |
|---------------------------|---|--|--------------|
| 委員会名 【技術委員会】 | 生体機構に学ぶ運動制御 協同研究委員会 【産業計測制御技術委員会】 | 委員会での調査・検討項目の概要、 委員長のメッセージ等 | |
| 設置期間 | 平成 23 年 3 月～平成 25 年 2 月 | モーションコントロール，進化学，生物学，理学療法学等諸分野の研究者を集め，生体筋骨格の概念を導入した新しい生体機構制御の理論体系を紹介しながら討議を深めることを目的とする。 | |
| 委員長名（所属） | 大西 公平（慶應義塾大学） | | |
| 委員会開催頻度 | 5 回／年 | | |
| 問合せ ・ 公募 受付 先 | 氏名（所属） | | 辻 俊明（埼玉大学） |
| | 電話 | | 048-858-3477 |
| | FAX | 048-858-3477 | |
| | E-mail アドレス | tsuji(at)ees.saitama-u.ac.jp | |
| 応募いただきたい方の 専門分野，経験など | 制御工学，電気工学，機械工学，生物学， 理学療法学，進化学などの諸分野 | | |
| 応募締切 | 平成 23 年 11 月 30 日 | | |
| 協同研究委員会の場合の委員の負担 | 2000 円／年 | | |

| | | | |
|---------------------------|--|--|--------------|
| 委員会名 【技術委員会】 | 回転機の三次元電磁界解析実用化技術 調査専門委員会 【回転機技術委員会】 | 委員会での調査・検討項目の概要、 委員長のメッセージ等 | |
| 設置期間 | 平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月 | 回転機の三次元電磁界解析の実用化を目的として，電磁界解析の大規模化・高速化に関する解析手法，回転機内の電磁現象に関する詳細な解析，ならびに，熱，構造，駆動回路など複数の領域にまたがる現象に関する解析方法などについて調査，検討を行う。 | |
| 委員長名（所属） | 河瀬 順洋（岐阜大学） | | |
| 委員会開催頻度 | 10 回／年 | | |
| 問合せ ・ 公募 受付 先 | 氏名（所属） | | 河瀬 順洋（岐阜大学） |
| | 電話 | | 058-293-2712 |
| | FAX | 058-293-2764 | |
| | E-mail アドレス | kawase(at)info.gifu-u.ac.jp | |
| 応募いただきたい方の 専門分野，経験など | 各種モータの研究開発・設計に従事あるいは 数値解析技術に関わる技術者・研究者 | | |
| 応募締切 | 平成 23 年 11 月 30 日 | | |

| | | | |
|---------------------------|--|-----------------------------------|---|
| 委員会名 【技術委員会】 | 特殊同期機の現状と将来動向 調査専門委員会 【回転機技術委員会】 | | 委員会での調査・検討項目の概要、 委員長のメッセージ等 |
| 設置期間 | 平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月 | | 特殊な構造あるいは特定用途の同期機（発電機，調相機，電力フィルタ，増減速機，電動機etc.）の調査を行う。ここで特殊同期機とは，調査報告が充実している電力用発電機，永久磁石電動機，圧延用電動機以外の同期機を言う。すべりが無い交流機は，同期機として分類することとし，広く情報収集して，新しい同期機の技術開発の進展に貢献する。 |
| 委員長名（所属） | 川村 光弘（TMEIC） | | |
| 委員会開催頻度 | 8 回／年 | | |
| 問合せ ・ 公募 受付 先 | 氏名（所属） | 川村 光弘（TMEIC） | |
| | 電話 | 045-510-5751 | |
| | FAX | 045-510-5503 | |
| | E-mail アドレス | KAWAMURA.mitsuhiko(at)tmeic.co.jp | |
| 応募いただきたい方の 専門分野，経験など | 同期機のうち特殊な用途，特殊構造に関する 研究開発・設計および製品開発に係わる業務に 従事している技術者・研究者 | | |
| 応募締切 | 平成 23 年 11 月 30 日 | | |

編集後記

今年も新茶のおいしい季節がやって来ました。今月号から論文誌の電子ジャーナル化がいよいよ開始されましたが、ニュースレターはこれまで通りの変わらぬスタイルで会員の皆様にお届け致します。

さて、今月号の巻頭言では、電気学会産業応用部門リニアドライブ技術委員会委員長である脇若弘之先生（信州大学）よりご挨拶いただきました。「リニアドライブ技術のこれまでとこれから」をテーマに、リニアドライブ技術の歴史をはじめ技術委員会の設置経緯や技術分野，そして国際連携を含めた現在の活動についてご紹介いただきました。20年後には超電導リニア高速鉄道の実用化が期待されているいま，世界に誇れる日本のリニアドライブ技術の益々の発展を期待していきたいと思えます。

学界情報は、2012年6月までに開催されるパワーエレクトロニクス技術を中心とした国際会議情報を掲載致しました。アブストラクトの締め切りがこれからの会議もごさいます。ご検討をいただければと思います。

資料コーナーでは日立製作所の高濱朗様より，新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）ホームページから日本

発の新技术である光触媒技術についてご紹介いただきました。光触媒の中でも最も優れた材料として利用されている酸化チタンについて，光触媒の持つ「有害化学物質の分解」と「超親水性」の2つの作用とその原理，身の回りの応用から環境技術に至るまで，幅広い応用技術と課題についてわかりやすく解説いただきました。

平成23年電気学会産業応用部門大会が9月6-8日の日程で琉球大学千原キャンパスにて開催されます。大会開催案内と論文募集を掲載いたしました。5月13日の講演申込締め切りまでまだまだ時間がございます。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

最近の技術報告リストも掲載しております。皆様の研究活動の資料としてご一読いただければと思います。

今月号には、1件の協同研究委員会ならびに2件の調査専門委員会に関して委員の公募記事を掲載しております。詳細は記事をご確認ください。

最後になりましたが、本号作成において各記事をご執筆いただきました皆様，ならびに，編集作業にご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

エディタ 野村 新一（明治大学）

※ 本文中の E-mail アドレスをご利用になる場合には，“(at)”を“@”に置き換えて下さい。